

地域と学校が連携して「地域社会人」を育てる
「上矢作フォーラム&プロジェクト100」

学校名	恵那市立上矢作中学校	対象学年	全学年
支援活動内容	「地域社会人」を育てる地域と学校の協働活動		

地域と学校の願い

○過疎化、少子高齢化が進む上矢作町で、中学生が地域の「自慢」・「誇り」・「伝えていきたいこと」だけでなく、「課題」・「問題」も学び、中学生として地域に何ができるかを考え、上矢作町に提言し、地域との協働活動を展開する。（提言する場が「上矢作フォーラム」、協働活動が「プロジェクト100」）その取組を通して、「ふるさと上矢作に誇りを持つ人」「将来地域で役立つ人」、つまり「地域社会人」を育成する。

組織と活動の概要

- 中学生が地域づくりについて主体的に考え行動できる場を保障する。そのための組織として、上矢作町「まちづくり委員会」と同じ6つの組織（子育て部会、福祉部会、伝承芸能部会、特産品部会、文化財保護部会）を中学校内に設置、全校生徒がどこかの部会に所属する。この6つの部会を通して学校と地域が連携する。
- 【4月】組織づくり 【5～6月】まちづくり委員会の方から講話（地域の実態、課題、町の未来等）をもとに、まちづくり委員会の方と話し合い、地域の方と中学生が意見交換しながら、協働活動を企画（上矢作フォーラム①） 【6～11月】企画した協働活動の実践（上矢作プロジェクト100） 【11～12月】実践レポート・プレゼンテーションを作成し、地域の方の前で発表（上矢作フォーラム②）

実施したプロジェクト

- 【福祉部会】独居老人へメッセージを書き届けた。地域の祭りでは、祭りに参加される方達に「おもてなし」をと抹茶をふるまうことを実施した。祭りに参加した人たちに大変喜ばれた。
- 【子育て部会】夏休み中の学童保育が大変だと聞いた中学生が、小学生に対して学習指導を行った。その他に、流しそうめん大会、スイカ割り大会も企画した。小学生は大変喜び、その保護者も中学生に感謝した。
- 【特産品部会】地域の特産品のネーミングとラベルを中学生が作成、道の駅で販売した。中学生が名づけた「ほししいもちゃん」は、短期間に完売し、その後新商品開発会議にも参加することになった。地域の祭りで、特産品の販売にも参加した。
- 【伝承芸能保存部会】地域の秋祭りで、地域の方から学んでいた伝承芸能である太鼓の演奏や獅子舞を行った。演奏だけでなく、司会進行役も中学生が務めた。太鼓演奏は老人福祉施設でも行った。



【学童保育で勉強を教える中学生】

活動の成果

- 中学生が自分たちで考えて、地域に提言し、地域の方と一緒に地域を活性化する取組を通して、「地域の役に立った」という活動により、自信と誇りが生まれた。
- 地域の子どもを地域で育てようと取り組んでみたところ、地域の大人たちも元気になった。学校と地域の協働活動により、中学生も地域の大人も共に成長できた。



【学童保育で流しそうめんを企画した中学生】